

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271601223		
法人名	株式会社 新上五島在宅ケアセンター		
事業所名	グループホーム あいりん(1ユニットめ)		
所在地	〒857-4402 長崎県南松浦郡新上五島町奈摩郷910-10		
自己評価作成日	令和2年6月28日	評価結果確定日	令和2年10月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「心と心のつながりを人と人とのふれあいを大切に」との理念のもと、安心、安全、快適な生活ができるよう支援しております。お客様の個性を大切に目配りを日々、心掛け、寄り添ったケアに取り組んでいます。地域との関わりを強く持ち、行事参加、行事主催などしております。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JkyvosvoCd=4271601223-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター		
所在地	長崎市弁天町14番12号		
訪問調査日	令和2年7月18日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

新型コロナウイルス感染拡大の影響で、お客様は面会制限のためご家族と会えなかったり、外出の制約がある中、職員はご家族の分も含めてお客様と寄り添ったり、関わったりして笑顔や元気が出るように日々努めている。また、ご家族が面会できずに、お客様の顔を見る機会が減少した対策として、法人のホームページから閲覧できるブログや、コミュニケーションアプリを活用して、お客様の写真を通常よりも多く配信することで、ご家族の不安軽減に努めている。このような閉塞的な時勢の中においても、職員はお互いに助け合う関係性や法人の風土があり、この信頼関係の基、お客様への生活支援サービスが日々提供されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を掲げ、いつも見える場所におき、管理者、職員は理解、共有し利用者が安心して自分らしい生活が送れるよう支援、実践につなげてます。	新型コロナウイルス感染拡大の影響で、理念の文言に示されている、「人と人とのふれあい」については、かなり制限を強いられているということであった。しかし、どこの事業所も条件は同じであるため、お客様とご家族様との繋がりを可能な限り途絶えさせないように、通常よりも多くお客様の写真や手紙を送るようにしている。このように様々な制約はあるものの、前述の通り、理念の実現に向けて職員間で工夫しながら持続的な取組みを行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の活動、行事(祭り、スポーツ事業、海の家、星空ツアーのガイド)に参加したり、中、高校生の職場体験など地域との交流を取り組んでいる。	新型コロナウイルス感染拡大の影響で、地域との関わりもかなり減少しているとのことであった。元々法人として地域の行事に積極的に参加したり、地域活性化に尽力されてるため、感染症対策が十分に整えば、従来通り、地域との関わりを深めていく方針であった。つまり、この活動が徐々に広がっていくと、自然とお客様と地域の接点が生まれるため、それまでは静観している状況と言える。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設見学、運営推進会議、地域行事の中で認知症の方の理解して頂けるようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政、民生委員、地区長、ご家族の方に参加して頂き、情報交換を行っている。会議で得た意見をもとにサービスの質の向上に取り組んでる。	主に冬期に流行するインフルエンザや新型コロナウイルス感染拡大の影響で、今年に入ってから一度も開催できていないとのことであった。国や保険者の方針等を確認した上で、代替の手段を講じる等の工夫が必要と考えられる。	保険者にも確認の上で、施設の運営の実施状況を中心に、書面回覧を行う等、運営推進会議の代替方法を模索されて、記録に残していくことを検討することを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行事や会議の参加して実情の把握をして頂き、意見交換や助言をケアサービスとして活かせるよう協力関係を築いている。	行政との接点の1つである運営推進会議は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により未開催となったり、認知症カフェの中止に伴い、以前のような関わりを持つことができないのが現状であった。最低限必要な相談や問い合わせ等に関しては、主に電話連絡で共有を図っているとのことである。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者の見守り、言葉かけを重視し居室や玄関の施錠しないようにしています。身体拘束について研修、会議を設け職員一人一人が理解し、チームとして身体拘束のないケアの実践に取り組んでる。	身体拘束や虐待について、職員が正しい知識を身に付けることを目的として、内部研修でDVDを見て、支援の在り方や対応方法を確認したり、職員間で意見交換をしている。新型コロナウイルス感染拡大の影響で、外部研修には参加できない中、可能な手段を講じて研修を行っているとのことであった。現在、この項目において、重点的に取り組んでいることは、お客様に対する言葉使いで、職員が気づかぬうちに口調が強くなっていると周囲が感じたら、お互いに注意し合う環境を作っている。また、上位者が職員に指導する際は、言葉使いが悪いという結果を注意するのではなく、どうやったら次は円滑にできるのか、やり方を指導しているとのことであった。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議やミーティングで知識を深め日頃から職員同士指摘したり虐待防止の徹底に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在必要のあるお客様はいないが、管理者研修などで学んだ知識を職員内で周知できるよう資料作成など施しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項を説明し、十分に理解していただき、納得での契約を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃からご家族様には面会や電話、一部メールでの状況報告を行い、意見、要望を聞く場面を設け、実践に取り組んでいる。	新型コロナウイルス感染拡大の影響で、ご家族の訪問が制限されている中、施設として重点的に取り組んでいることは、ホームページのブログのコーナーに多くの写真をアップしたり、ご家族の不安を払拭できるよう、お客様の日常の写真や手紙を通常より頻度を高めて送付したり、誕生日等のイベント時の写真を多めに送付して、お客様の元気な様子を視覚で確認できるようにしている。その他、ご家族とコミュニケーションアプリを活用して、近況のやり取りをしたり、ちょっとした報告・連絡・相談に活用している。このようなやり取りの中から、お客様やご家族の意見を抽出して、必要なことは改善に繋げている現状であった。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に会議が行われ、意見や提案を聞く機会を設けている。職員の不満や心配事を相談し易い環境づくりを行っている。	代表と各職員との面談を行う予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大の影響や諸業務の関係で、今のところ、全て実施できていないとのことであった。その代替方法として、主任が各職員と面談をすることで意見の集約に繋げている。主任は必要に応じて代表へ面談の内容を報告して、意見を基に業務改善に繋げたり、職員の処遇改善に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の生活状況を考慮し、就業環境、条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会参加、社内で定期的に勉強会を行い、知識を深め成長できるよう取り組んでいる。未資格取得者に関して、取得を目指し取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会で意見交換を行い、サービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前から施設内の見学、面談内でお話を伺ったりし、本人様の要望、不安に対応できる関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	自宅訪問、施設見学おこない、本人様の気持ちをもとにご家族様が不安、要望を話しやすい環境作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現在の本人様の生活を支える為の対応をもとにサービス提供できるよう努めている。契約までの期間も他の方法、サービスの情報提供を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活を共にする意識をもち、おだやかな生活ができるような環境作りをおこなっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会、連絡時、日々の暮らしの出来事や、気づきの情報を伝え、信頼関係を作り共に本人様を支えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人様の希望に沿って外出支援、電話、面会時ゆっくり過ごしていただけるように努めている。地域伝統の風習、お祭りを施設内でおこなっている。	新型コロナウイルス感染拡大の影響で、外出が制限されたり、人との交流が制約されて、思うように関係継続の支援ができない中、近隣の神社の祭りの際に、関係者の配慮で少し施設に立ち寄ってくれたりして、お客様は喜ばれていたとのことであった。この他にも、お客様の受診後に、ゆかりのある場所の前を通って施設に帰る等、現況下においてできることを工夫しながら続けている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフは、お客様一人一人の人間関係、性格を把握し適度な距離を保ちながら支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後もお見舞いに行ったり、ご家族とお会いした際、お話をしたり等やり取りを続け、繋がりを大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の行動、生活の中で本人様の表情、言動の変化に気を配り、秘めてる思いを引き出し、気持ちに添えるよう支援している。	お客様の思いを把握するために、職員は会話を大切にしている。お客様が話しかけてきた時は、寄り添い話をよく聞くように努めている。特に入浴時は1対1になることで、お客様もリラックスされており、会話の中からお客様の思いや意向を聞き取ることができるということであった。把握したお客様の思いは「連絡ノート」に記録して職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日常生活の中で、多くの関わりをもちこれまでの暮らしの把握に努めている。入所前に生活歴など職員に情報共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人で感じた気づきや日々の関わり、バイタル表など個人カルテに記録し情報共有し確認している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的に会議をおこない、チームとして意見、検討しながら本人様、ご家族の要望を取り入れた介護計画を作成している。	面会時や電話でご家族様の意向を把握し、「部署ミーティング」(主任、副主任、看護師、職員参加)で「課題分析(アセスメント)概要」(職員の意見を取り入れて主任が作成)を基に目標や具体的な支援内容を検討して介護計画を作成している。支援経過は「生活記録」に毎日記録している。基本的に6か月ごとに「部署ミーティング」でモニタリングを行い、次の介護計画に繋いでいる。お客様の状態に変化があれば、その都度話し合い介護計画を見直している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録に日々の様子やケアの実践など記入し、職員間で情報共有しながら介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況、要望に応じ、職員間で情報を共有しながら柔軟に支援できるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	老人クラブ、保育所、小学校、移動図書館など地域資源を取り入れを常に行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	看護師、スタッフが付き添い定期的に受診している。ご家族の同行受診もある。本人・家族希望のかかりつけ医を確認し、適切な治療を受けられるように支援している。	これまでのかかりつけ医を継続している。受診は看護師が同行し、受診結果や内容は「受診報告書」に看護師が記録し、職員間で回覧して情報を共有している。看護師の専門的な助言により、お客様の症状に合わせた処置ができるようになる等、支援の向上に努めている。受診内容は、職員がご家族様に電話等で報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の暮らしの情報や気づきを伝え、相談しながら受診の支援や看護を受けている。看護師がホームに配置されており、健康管理、医療面の対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はこまめに病院を訪ね、状況を聞いたり記録をし、職員間で情報共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族、主治医と話し合い今後の方針を共有した支援に取り組んでいる。少しでも変化があった場合は、即座に家族に報告、連絡している。	入所時に「重度化した場合における対応に関する指針」を説明し、「看取りに関する指針」を基に、施設の看取り介護の考え方や医療体制、具体的な支援内容を説明し同意を得ている。協力医療機関とは24時間連絡が取れる体制が整っている。お客様の状態変化がある度に、医師、ご家族様、職員と話し合い、今後の方針の統一を図っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時に備えて定期的に訓練を行い、実践力を身に付けている。急変時に備えAEDを設けており、講習会を行った。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	定期的に避難訓練の実施、地域近隣住民の協力体制を築いている。	「火災避難マニュアル」に沿って、年2回、夜間想定での避難訓練を行っている。地域の特性を踏まえて、津波発生時の避難訓練も「自然災害避難マニュアル」に沿って実施している。実施内容は「あいりん消防訓練実施要綱」に記録している。緊急時は、地元消防団（職員が団員になっている）や近隣住民、民生委員との協力体制が整っている。消防署主催の「救命救急講習」を受講する等、研修も行っている。防災のため「火災予防自主点検表」に沿って毎日点検し、飲料水や食料の備蓄も整えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員全員がプライバシー、誇りを損ねない言葉かけを心掛けている。	代表や主任、副主任から、朝礼時や日常的にお客様への「言葉かけ」に関して話しが あっている。職員間でも気になる言葉かけが あるとお互いに注意し合い、お客様の尊厳や プライバシーに関する研修を行う等、施設と して、日常的な確認と改善に向けた取り組み を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の会話の中から希望を確認している。自発的行動をしやすい環境作りをスタッフで取り組んでる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の基本的なスケジュールはあるが、個々に合った生活ができるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に散髪を行い、支援している。本人の希望した衣類、身だしなみが選んでもらうよう努めている。最近はハンドネイル実施		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お客様のできる範囲でお手伝いをさせていただいてる。旬の野菜、スタッフの畑でとれたものを下処理して、懐かしい話しをしながら楽しくできる環境作りをしている。	お客様の状況に応じて、野菜の皮むき等の下ごしらえを職員と楽しみながら行っている。献立は職員が作成し、地域住民から魚や野菜の差し入れがあれば献立を変更して、職員が調理している。お客様と職員と一緒に食事をしながら、調理の感想を聞いて、お客様の好みの味になるように努めている。お弁当の日や手作りおやつ、七夕そうめん流し、お客様の誕生日に職員がケーキを作ってお祝いする等、食欲を高め、食事への関心を引き起こす支援を行っている。食事風景やお誕生日お祝いなどの写真をラインや法人のブログでご家族に発信している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人に合わせた食事形態の配慮、水分量、食事量、好きな物、栄養など記録、引継ぎし安定した亮をとれるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食前前、口腔体操を行い、毎食後歯磨き、うがいをさせていただき口腔ケアに努めている。就寝前はポリデントで洗浄、消毒している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄時間をチェック表で把握し、トイレの声掛けや、パットの確認をしている。可能な限り布パンツを利用して頂く。毎回の排泄後、温かいタオルで下清拭に取り組んでいる。	排泄パターンを把握し、声かけやトイレに誘導することで、全てのお客様は布パンツとパットで過ごしている。布パンツで過ごすことで皮膚のかぶれが改善する等、お客様の身体的精神的負担が軽減している。また、お客様の状況に応じてパットの種類を検討する事で、ご家族の経済的負担軽減も図っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄の有無をチェック表で把握し、便秘症の方は下剤の量を調節しながら服用している。予防の為に体操や散歩をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調不良者以外毎日、本人の意向を聞き、入浴している。	基本的に毎日入浴し、お客様の好み(温度など)に合わせる等、個別の入浴支援を行っている。入浴を嫌がるお客様には言葉かけを工夫し、入浴する気持ちになって頂けるように努力している。お客様にスムーズに入って頂ける言葉かけや更衣時の身体的変化等は「連絡ノート」に記入して職員間で共有している。お客様が個別に用意したシャンプー、ボディソープを使用する等、入浴を楽しんで頂けるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は長時間の座位することがないよう、静養して頂いたり、夜間安眠して頂けるよう、日中活動を増やすようしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	スタッフは個人の薬の説明書を見て把握できるよう心掛けている。服薬は誤薬のないように服薬表をもとに種類、数をセット時、服薬前、服薬時、確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お客様に洗濯物干し、たたみや調理の手伝いなどの役割をもってもらっている。情報、生活歴をもとに趣味等の把握している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お客様とご家族様の希望のもと外出している。天気が良い日や体調の良い日に散歩している。	新型コロナウイルス感染拡大の中、今までのように、毎日散歩に出かけたり、近くの神社に参拝することは少なくなったが、家族の希望で自宅に外出し家族と食事をする、受診後に思い出の場所をドライブする、重度のお客様も、車椅子で外気浴や日光浴を楽しむ等、お客様が日常的に外出を楽しむことができるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人、ご家族と話し合いしながら、事務所で管理し必要な時に使えるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	お客様の希望に応じて、電話、手紙のやり取りができるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合った花、飾りなどし居心地よく過ごせるよう工夫している。お客様の行事での写真、作品など展示している。	新型コロナウイルス感染拡大により、以前のように外出ができない状況の中、季節感のある飾りや花を活け、お客様と職員と一緒に花の植え替えをする等、施設内で季節を感じて頂けるように工夫している。1日3回消毒（手すり、ドアノブ、ソファ、机等）や換気をし、定期的エアコンフィルター掃除を行う等、感染予防に努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間はゆったりとしており、好きな場所でそれぞれ過ごせるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族の写真、使い慣れたものなど利用して居心地よく過ごせるよう工夫している。	居室には仏壇（毎日、花と水を供えている）やお気に入りの櫛、髭剃り、タンス、枕、布団等、馴染みの物や使い慣れた物を置いている。担当職員が季節に応じて衣替えや居室の模様替えを行っている。居室も消毒をし、定期的エアコンフィルターの掃除を行う等、感染予防に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	お客様の自立した生活を送れるよう、過剰な介護や頼み事が押し付けにならないよう支援している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271601223		
法人名	株式会社 新上五島在宅ケアセンター		
事業所名	グループホーム あいりん(2ユニットめ)		
所在地	〒857-4402 長崎県南松浦郡新上五島町奈摩郷910-10		
自己評価作成日	令和2年6月28日	評価結果確定日	令和2年10月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「心と心のつながりを人と人とのふれあいを大切に」との理念のもと、お客様、一人ひとりが笑顔で快適な生活ができるよう支援しております。又、地域との関わりを密にする為、行事参加、行事主催などしております。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JgyvosvoCd=4271601223-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター		
所在地	長崎市弁天町14番12号		
訪問調査日	令和2年7月18日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をいつも見える場所に提示し、常にお客様とのつながりやふれあいを大切にしている		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日々の生活の中で、散歩など行い、あいさつ、会話をおこなったりしている。また、地域との交流を大切にし、行事への参加や地域の老人会の慰問なども受け入れるなど行っている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	相談などがあった場合、支援方法をアドバイスしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族様、行政、民生委員さんに参加していただき、状況報告や意見、提案など受け、サービスの向上に活かすよう取り組んでいる		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地区の郷長さんにも運営推進会議に参加いただき、意見、提案、情報など頂き、協力を受けている		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないよう取り組みながら、事故につながらないように心掛けています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待が行われないよう注意を払い、皮下出血など出来ている場合などは、なぜそうなったかを話し合い防止に努めている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修にて権利擁護について学んでいる。現在、必要性はないが、今後、活用する場合は、支援できるようにしていきたい		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の改定があった場合、説明を行い、理解、納得をしていただいている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にご家族にも参加していただき、意見、要望など伺っている。また、面会時にもお話を伺うように心掛けている		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや会議などで意見、提案などを聞いていただいている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の努力や勤務状況を把握し、やりがいなど向上心を持てるように努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ミーティングや内部研修など行い、実践につなげている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部の研修などで、同業者との交流の機会を頂き、意見交換など行っている		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	お客様に寄り添い、想いに耳を傾け、何を求めているか聞き出し、安心出来る関係性が出来るように心掛けている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に見学に来て頂いたり、面談などを行い、不安や要望などを聞いたり信頼関係が出来るように努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様、ご家族の必要とされている事を見極め、適切なサービスを出来るように努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事出来ない事を見極めて、出来る事を他のお客様とも楽しまれて行えるように心掛けている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	年に数回、ご家族様に手紙を送らせて頂き、状況を報告したり、面会時に報告するなどし、情報の共有を行い、関係を築くよう努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所へ出かけたり、面会も気軽に出来るよう支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良い方を近い席にセッティングしたり。関わりが持てるように間に入ったりして、支援するよう努めている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も状況や相談を伺うように努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望に添えるよう対応出来るように本人様と対話しながら支援している		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	お客様との関わりをしっかりと持ち、その中で馴染みの事、物を把握するよう努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	お客様の状態、状況を把握に努め、変化にあった対応が出来るよう心掛けている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	お客様の变化などミーティングで出し合い、適切な介護が出来るよう心掛けている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録を記入し、特に注意が必要な時などは連絡ノートで情報を共有し、実践に即して活用している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々状況にあった対応が出来るように努めている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事などに参加し、その中で、資源の把握し、安全な暮らしが出来るよう努めている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	要望に応じて、受診を行うよう支援している		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	お客様の变化など、報告、相談を行い、適切な受診が受けられるように努めている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	サマリーなどの提供を行い、情報交換に努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合などは早めに家族と話し合い、今後の方針を決め、支援に取り組んでいる		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部、外部で研修を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	避難訓練を実施している。また自主防火点検を行っている		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お客様を尊重した声かけを心がけ、声かけがきつい時などは職員同士で注意しあうようにしている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お客様の希望や選択ができるように心掛けている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望に添えるよう支援を心がけてはいるが、こちらの都合に合わせてしまう事がある為、注意していきたい		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その方の好みに応じた服装が出来るよう支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	お客様の出来る事は手伝いをして頂き、好みに応じた食事が出来るよう努めている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	お客様、一人ひとりにあった量、水分量、食事形態をかえて支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	お客様、一人ひとりに応じた口腔ケアを実施している		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	お客様、一人ひとりに合わせてトイレ誘導を行い、パット使用を減らすように取り組んでいる		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事形態を変えたり、水分も量や味を個々に変更して対応を行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	時間は職員の都合に合わせてしまっている事もあるが、その方の好みに合わせた入浴が出来るように努めている		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は休息を取り入れながら、夜間も気持ち良く眠れるよう体を動かさず活動を行うよう努めている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理を行い、用法、副作用をしっかりと理解し、変化に気づくようにこころがけている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの出来る事、出来ない事を把握するようにし、家事手伝いなども取り入れながら、気分転換になるよう努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	ご家族の希望があった場合、外出支援が出来るように取り組んでいる		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お客様の希望に合わせた買い物支援が出来るように努めている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	贈り物などがあった場合、電話が出来るように支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じれる空間づくりを心がけ、不快にならないよう工夫している		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	その時々に応じて、席のセッティングをしたり、楽しく会話出来るよう工夫している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物を取り入れたり、お気に入りの写真を飾らせていただいたりと居心地良くなるよう工夫している		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来る事、わかる事を把握するよう努め、安全を第一に考え安心して生活出来るよう心がけている		